平新報

發行日毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰 一行一回五十錢 場所指定倍増
一部定價金十錢送料五厘

現時の思潮を考察する時 深憂に堪えざるものあり

体感の一端を述べて青年諸君の參考に供す

石川倉吉

石川氏は警察界に職を奉じ、東京又は朝鮮と一生を斯界に奉仕せしと申すも過言ならず、鮮土にては警視署長として內鮮融和に盡せし事多く目下郷里たる双葉郡大久村に歸農して青年團に顧問として青年指導の任に當り余生を郷土啓發に努力されかつては同村の村長に推された事もあり温情に富む人格者である。左は氏がかつて同村及び久之濱町青年團員のためになせる講演の概要である。『記者識』

私は學淺く才鈍にして其及ばざる事を、常に畏れて居るものでありますが現時國民思想の傾向を靜かに考察するときは實に深憂に堪えざるものがあります、玆に於て不肖をも顧みず所感の一端を申述まして青年諸君の御參考に供したいと思ひます。

慾望、感情の節生

人間は慾望と感情とを節生せよと申すのであります。然らば、人の慾情とは何ぞや、御存じの如く慾情と申すのは、人間の本能と云ふべき体慾や稍や進みたる慾望、激情などを申すのであります、此の体慾と云ひ激情と云ふものは、人間として誰れでも持つて居るのでありますが、之れを本能や情に任せて置く時は、自ら不道德となり、人生の理想に反する事があります。儒教に克己を勵み禮を重んじ、又佛教に無慾を尚び我を退け、西哲の特に節生を重ずる事は、之れがためであります、畏くも教育勅語に『恭儉已を持し』と仰せられてあります、實にお互は此の三者を節生せざる時は、已が身を持つことも出來ず、況して社會國家に奉仕する事などは思ひも寄らぬ事であります。

体慾とは、食慾などの事でありますから諸君に申すまでの事でありませんが、彼のラットの言つたやうに食慾は人間を活動せしむるに有力なるもので、これあればこそ、我等を成上し健康を保持し活動し得るものであるが、若し其度を過す時は却つて健康を害し、腦力を鈍くし、放逸奢参の風を増長し、遂に生命をも危ふくし、社會、國家を衰滅せしむるに至らしむるものであります。諸君世の實例を御覧なさい、贅澤な衣食住の人は、兎も角、身心がだらけ易く、胃腸病も痞腫も食べ過ぎの者、美食の者に多いことを見るものであります、お互は常に体軀の健全を計り、精神を清明に飲食は養生を主としてなすべきであります。假りにも贅澤にわたらぬ様大に注意すべきであると思ひます。其身体に係る自然の慾は、どんな慾でも特に節生を守るべきであることは勿論であります。殊に貧者の窮乏は飲食の贅澤より來たるものが多いから常に精神を愉快にし、活動努力を盛にし質素な飲食をなすことが必要であります、他の体慾も之に準じて節生に努むる事が大切であると思ひます。

名譽財産慾は程よく

次に慾望とは、名譽や財産や快樂を欲し望むことでありますが、お互も人間として自然的のものに相違ありませんが、矢鱈に名譽を望み、財産を希ふことに熱中して最終の目的たるべき人生の禍福と云ふことを忘れてはなりません。特に快樂の如きは、天が人間の當然の生活をするに對して下された自然の褒美でありますから、努力しないで快樂を虻蜂取らずに終つてはなりません。

名譽の如きは、人間特有の慾望で、之れあるがために身を愼み德を磨き業を勵み功を樹つるものでありますが、彼の有名な格言にある如く、名は實でありますから、實際行ひを善くして自然に名譽を得るやうにすることが大切であります。それを人は、實を構はないで、名譽をほしがる癖がありますから左様なことのないやうにせなくつてはならぬのであります。

それから財産の如きも、財産は幸福なる人生を送るに必要でありますから、此の主目的を忘れて方法なる唯金錢物資にあこがれるやうではならぬのであります衣食足りて禮節を知ると云ふこともあり、貯蓄することも必要でありますが、人の困苦をも厭はぬ無理な收入法、貯蓄法をしては、却つて財産なきに勝ることがありますから、慾に目の暗まぬやう、本務を盡して權利を得るやうよく勤儉しよく貯蓄し而して人道を完全に行ふべきであります。

過度の快樂と激怒は害あり

又快樂は人間になくてならぬものでありますが、人間の本能を程よく滿たせて道德を行ふ、自然の果報として受くべきものであつてたゞ快樂を受くるために行へ、活動するものでないことを知つて、惡しき快樂に耽らず貧らぬやう、節生することが肝要であります。

それから激情とは、熱情とも云ひ、心情の平靜を保たず、不平激怒憂愁することを云つたものでありますから、此等も亦人生に已むを得ぬものではありますが其度を過してはならぬのであります、常に天理を知り不平をあきらめ、腹の立つ時は、殊更に落着いて、相爭の仕末を善意に解して、感情を激してはなりません此の愼みがないと、己の心を亂し、人の感情を害し、社會の同情を失ふことになります、これも亦節生を要することであります。

故に古來の聖賢は、最も心の不平激怒を戒めたるものであります、佛教の如きは、一度の瞋火に、無量の功德を燒くと說いて居ります、我國近世の儒者貝原益軒先生は、心氣を平和にして人を咎めず我が身に反り求め己を責むれば身修りて樂多し、と云はれたり、此の工夫甚だ益あり、常に此の心を以て我が身を治むべしである、若し此の工夫忘るれば、必ず道を失ふ、古語に『君子は已に求む、小人は人に求むと云へり』とある、實に至言と謂ふべきであります。今晩甚だお寒い所長い間御清聽を煩はし誠に恐縮に堪へない次第であります、幸ひに御參考と相成るべき事もありましたならば仕合に存じます。

出でや活社會に光明を抱いて

本春磐中卒業生の氏名前號報道の通りなるが、石城産婆、佑賢、平産婆、磐高女の卒業生氏名左の如くである

磐城佑賢學舍 十九日卒業式

私立磐城佑賢學舍第十五回卒業式は去る十九日午前十時より擧行したが今年卒業生は本科七十二名、普通科四十六名、合計百十八名にして氏名左の如し

（五十音順）

◎本科之部 會田謙 阿
部武男 赤津秀三 五十
嵐虎太郎 江尻要 大塚
勇 大友義圓 大平孝內
大和田正三 柳田章 久
保木拾次郎 佐藤磐 佐
藤完二 齋藤亥之八 佐
藤三郎 鷲良司 齋藤直
次郎 坂田一利 佐藤子
鈴木武 鈴木正 高木賢
治 戸田榮 藤堂操 永
山敏正 內藤義次 永山
茂隆 永山喜榮 新妻豐
二瓶正二 西山政敏 星
覧 森強 柳田等 吉野
德四郎 渡邊三彥 吉田
武雄 遠藤武雄 小高正
昌 岡田正 石上てる
入倉みつい 飯尾まさ
大和田きゑ 柏原たに子
大勝きよ子 上遠野とき
よ 川島きく 草野文子
駒木根さわ 駒澤はな
佐藤きよ子 佐藤文子
佐藤よしの 酒井よて
庄司つめ子 鈴木いなみ
鈴木はつ子 鈴木みさを
高橋ひで 永久保ちよ
西野はる 沼田よしの
根本たい 萩野はる 松
崎とも 馬上やそ 室越
のぶ 矢吹あい子 吉田
まさ 吉田ます 猪狩美
幸 以上計七十二名
◎普通科之部 荒川力
猪狩忠衛 猪狩通 磯上
富保 江尻茂 宇佐美安
友 大友隆造 大友変
大熊錄郎 大平春太郎
小野昌元 小野章平 金
賀武彥 加藤四五一 木
田吉平 金豐質 草野正
一郎 草野清 草野政敏
倉島一郎 國井敏雄 佐
藤正道 佐藤信次 佐藤
一平 澤田清 酒井宇佐
美 志賀義雄 鈴木正明
鈴木多司馬 須藤茂 關
內和介 高木三平 高木
茂雄 大樂弘 東條祐守
新妻一美 新妻喜平 芳
賀惟馨 松崎榮一 馬目
與三郎 宮川武夫 守谷
乘明 矢野織太 山崎與
平 矢吹昇 藥谷光雄
以上計四十六名

石城産婆 看護婦學校 十九日卒業式

平町一丁目鷹崎千代子女史の經營に係はる私立石城産婆看護婦學校第二十八回卒業式は去る十九日午後一時より同校に於て擧行せるが今期卒業生産婆科三十名、看護婦科二十五名、合せて五十五名であつた。

◆産婆科 ◎池田ろく
遠藤ふく 遠藤きく 遠
藤なつよ 早坂きみ 堀
川きよ 富田すゝえ 織
內とき 大部みき 渡邊
とめ 渡邊さと 川原吹
もと 高木あき 高木よ
し 田邊さよ 永井つる
◎矢內さし 安藤菊枝
津田かつ 佐藤すね 津
田さわよ 木村はな 志
賀りん 白土なほ 蛭田
あき 蛭田やい 澁川な
つよ 平井きくよ 鈴木
きさ 鈴木佐多
◆看護婦科 遠藤はな
早坂きみ ◎富田すゝえ
渡邊とめ 渡邊さと 金
成愛子 片寄きく 川原
吹もと 吉田しも 田邊
さと 高木よし 田巻た
ま 永井つる 古市さた
青木こう 阿部すいよ
津口さわよ 佐藤かつこ
菊田はる 木田みつよ
木村はなよ 水野谷せつ
志賀りん 平井きくよ
鈴木きさの 以上
（◎印は優等生）

平產婆 看護婦學校 二十日卒業式

平町南町清野きよ子女史の經營に係はる私立平産婆看護婦學校第二十二回卒業式は去る廿日午後二時より同校に於て擧行せるが今期の卒業生氏名左の如く産婆科十五名、看護婦科四十一名で合せて五十六名であつた

◎產婆科卒業者 西山う
め 渡邊はる 渡邊りよ
加藤きん 吉田たけ 高
木せい 丹野ゆき 永山
こよ 草野ていよ 山崎
よしゑ 松本さつ 小泉
まさ 佐藤よね 鈴木つ
や 鈴木いね 以上十五名
◎看護婦科卒業者
西山むめ 新妻かねよ
新妻てる 富岡いく 大
友とく 小野きん 湯邊
まさこ 渡邊はるい 金
成みよ 上遠野まさ 加
藤きん 菅野ちよ 叶田
たき 葛石きよ 吉田と
よ 高萩たみ 高木きく
高原まつの 丹野ゆき
永山こよ 遠藤しな 草
野ゆき 矢野よし 松本
たい 小松しめ 小原ま
さ 青木ゆき 坂本はん
齋藤ます 齋藤きみよ
佐處よね 佐處とみ 佐
原あや 森高隆子 茂木
みどり 鈴木いね
鈴木ふじえ 鈴木つや
鈴木みつ子
以上四十一名

磐城高女 二十二日卒業式

磐城高等女學校第十六回卒業式は去る二十二日午前十時より擧行したが卒業生は百五十三名で氏名左の如く

(夏井)阿部花子(內郷)荒
井いく代(平町)新井千代
子(平町)生田豐子(平町)
伊藤綾子(平町)石川千枝
子(內郷)磯野とり(湯本)
飯島しづ(磐崎)今井さく
の(多賀郡)宇佐美ちよ
(內郷)薄きくよ(四倉)上
澤すゞ(播槌小路)梅崎せ
つ(內郷)江尻文子(平町)
遠藤いち(平町)遠藤喜美
(好間)遠藤ちよの(平町)
遠藤やつ(平町)大柴幸子
(双葉郡)大須賀芳井(赤
井)大關千代(平町)大竹
千代(平町)大原みの(平
町)大平まさ子(平町)大
和田美代子(同)織田さわ
子(同)小野絢子(植田)小
宅かねゐ(磐崎)織內いし
(湯本)樫村敏子(神谷)片
寄春子(植田)香取榮子
(多賀郡)金澤みつ(多賀
郡)金成ちよ(內郷村)金
子幸子(赤井)川瀨幸江
(湯本)上川竹(好間村)木
田まつ子(好間村)木田み
つ(內郷)草野幾世(下小
川)草野喜與子(上小川)
草野清子(內郷)草野せつ
(湯本)楠喜美子(平町)久
保木いゑ(同)小泉秋子
(多賀郡)後藤香子(赤井)
木幡幸子(湯本)小林とみ
(平町)小林なか(內郷)小
松きみ枝(平窪)小室はる
よ(平町)齊藤たみ(好間)
齋藤れい子(大浦)酒井き
み(磐崎)佐川あきの(平
町)櫻井まさい(植田)櫻
田さと(好間)佐藤きく
(平町)佐藤千代(好間)佐
藤ちよ(平町)佐藤房子
(湯本)佐藤みき(赤井)三
瓶よて(磐崎)三部りん
(好間)志賀きみ(多賀)志
賀こう(双葉)志賀美登子
(植田)下山田ひで(內郷)
白土とよ子(平町)菅原ゆ
き(四倉)鈴木かね(夏井)
鈴木孝子(內郷)鈴木さよ
(四倉)鈴木はな(平町)鈴
木みさを(內郷)鈴木操
(內郷)鈴木みつ(平町)鈴
木むめ(內郷)雛內富美子
(平町)淸靜江(同)先崎み
い(同)高木ふよ(四倉)高
木雪子(大野)高木よし
(平町)高田操(湯本)高萩
きくゑ(同)高橋てる(草
野)竹內靜子(平町)只野
さわ(磐崎)谷崎きわ(湯
本)田山栩子(赤井)丹吳
芳子(平町)千葉とし(同)
堤ともゑ(同)富岡のゑ
(同)永井萬龜(內郷)永久
保しめ(平町)永島綾子
(同)長瀨品子(同)中根貞
子(湯本)生田目きよ(平
町)滑川春子(草野)新妻
ちう子(神谷)新妻とよ
(平町)新妻みよ子(茨城)
沼田たい(草野)根本つや
(平町)野木とき(茨城縣
野口浦子(小名濱)野崎直
子(內郷)箱崎巴(四倉)長
谷川美代(內郷)菱沼貞子
菱沼壽子(赤井村)平澤と
ち(赤井村)平本光子(飯
野村)蛭田うめを(植田)
布施貞子(好間)船生たか
子(平町)星恒代(同)堀川
八重子(神谷)增子じゆん
(田村)松永ます(小名濱)
松本政(平町)馬目すみ子
(四倉)馬目とく(平町)馬
目文子(平町、水竹かつ
(平町)水戸はま(內郷村、
綠川とし(磐崎)綠川操
(平町)三森愛子(多賀郡)
村上百合子(多賀郡)村山
ゆき(平町)宗像ちよ(同)
室井政子(植田)森きみ
(平町)谷島たう(內郷)谷
田部きくの(湯本)柳內喜
代子(平町)矢吹かつみ
(夏井)矢吹たま(內郷)矢
部たけ(双葉郡)山口綾子
(泉村)山崎やをよ(平町)
横田いく(同)吉田すゑ
(平町)吉田富子(湯本)若
松あき(平町)渡邊富子
(平町)渡邊さよ(平町)渡
邊みゆき（以上）
(優等生) 吉田とみ、佐
藤ちよ、星つねよ、櫻井
まさよ（以上）

平町田町
高久病院
電話五一三番

×光線科
上田醫院
平町南町 電話一二九番

入院應需
內科、小兒科、皮膚科
藤沼醫院
平町紺屋町 電話五〇七番

磐城湯本
溫泉旅館
松柏館
電話五番

植田町本町
森合齒科醫院
森合芳男

中等教科書
參考用書
ノート
カバン
萬年筆其他
中等學校入學
學生諸君を迎ふ
教科書一覽表を差上ますから御來店を願上ます
平四丁目
マルトモ書店

平二丁目
清光堂

平才槌小路
乾書店

平才槌小路
堀魁文堂

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二丁目 電話長三番

日本石油株式會社特約店
平町二丁目
營業種目
內外機械油
發動機用油
色油類各種
度量衡器
カーバイト
コールタール
石油乳劑
淸關內油店
關內正一
電話長十六番
郡山支店開設
郡山市驛前 關內油店
支店 油槽所 茨城縣多賀郡關本驛前 電話平潟三十七番

お坊ちやんの……
御入學の洋服は
ドウゾなかやの洋服を
新入學用洋服賣出し
黑小倉 二圓貳十錢
紺サージ 四圓貳十錢
紺ヘル 五圓貳十錢
平町二丁目
㊅なかや洋服店
電話二〇三番

又も魁!!
◆松竹スター好み セール陳列會 三月十五日ヨリ
◆春衣荷揃 格安品澤山あります
◆春セル 小柄七圓五十錢より 中柄九圓より
平町三丁目
亀中野吳服店
電話六十七番
店員募集 十三歲より十六歲迄 五名

理化學研究所製
吸入用酸素。酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
平町四丁目
關內藥舖
藥劑師 關內榮助
電話四〇番

事業と人物（十一）

故植竹源太郎氏の遺業

大越中佐銅像建設成る

除幕式は櫻咲く四月

初代の磐城中學校長元、元和園主故植竹源太郎氏が遺業としての故大越中佐銅像建設は植竹氏の存命中敷地問題で行悩みつゝあつたが十鍬倉神社西側に決定し基礎工事も成つた折植竹氏の長逝に遇つたが其後**山崎清三氏**主となり故人の遺志を次いで事を運び銅像は平町鍛冶町國府田直良氏實弟新進の巨匠**赤堀新平氏**の手により氏の精巧なる技工に依つて作成され過日來赤堀氏來平今回取付の完成を見た、かくして軍神大越中佐の銅像は故植竹氏の奔走に依つて……縣社の森に鎮安され泉下に在る大越氏の威風植竹氏の努力は永へに傳はる事になつた。

因みに除幕式は櫻咲かんとする四月拾日頃盛大に擧行さるゝとの事である、資業此の季に行はるゝ故植竹氏泉下に在つてさぞ満足の事であらふ。

入學難に直面して救濟方法として平町に

私立中學設立の聲漲る

此機運を逸せず大方有志の共力を切望す

新田目春松

余は前後三回中學校入學難救濟方法に就て本紙上に述べたりしが愈々入學期と成り各父兄は目前の急務と成り近日發表の上は各救濟方法に就て講究せむとするに至る如何なる方法に救濟すべきや最近數年間磐城中學校志願者と採用人員との比を示さむ

年度	志願者	採用者
一〇	五九九	一八三
一一	六三〇	一八九
一二	七六九	一八四
一三	七〇七	一八七
一四	七一九	二四五
一五	六二七	二四二
昭二	五八三	二三七

右の表に依れば磐城中學は志願者の約三分の一を採用し居るなり更に各中學の毎年の入學志願者數を示せば左の如し

◆大正十三年度

安積	三〇六	一九四
磐中	七〇七	一八七
福中	二八一	一四五
相中	二六七	一三九
會中	四二五	一三六
喜中	二一四	九五
保中	一二一	九七
白中	二七六	九六
安達	一五五	一〇一
田村	一四三	一〇〇
双中	二五六	一〇〇
計	三、一五一	一、三九〇

◆大正十四年度

安積	二八〇	一九三
磐中	七一九	二四四
福中	二四三	一四二
相中	二三三	一四五
會中	三八四	二〇五
喜中	一八八	九七
保中	一〇九	九三
白中	二二六	九六
安達	一二八	一〇二
田村	一三三	一〇〇
双中	一一九	九九
計	二、七六二	一、五一七

◆大正十五年度

安積	二八二	一九二
磐中	六二七	二四二
福中	二一八	一四六
相中	二三五	一四四
會中	三八三	一九六
喜中	一五九	九七
保中	九五	七八
白中	一九四	九七
安達	一四〇	一〇四
田村	一三一	一〇〇
双中	二〇〇	一〇五
計	二、六六四	一、五〇一

◆昭和二年度

安積	二五六	一九一
磐中	五八三	二三七
福中	二四〇	一四九
相中	二六〇	一四七
會中	四〇一	一九八
喜中	一五二	九七
保中	一二九	九九
白中	一六五	九九
安達	一二八	一〇〇
田村	一〇七	九八
双中	一三四	一〇〇
計	二、六五五	一、五一五

◆昭和三年度

		募集
安積	二五三	二〇〇
磐中	五四五	二五〇
福中	二一五	一五〇
相中	二四〇	一五〇
會中	二七〇	二〇〇
喜中	一四一	一〇〇
保中	八二	一〇〇
白河	一四四	一〇〇
安達	一三〇	一〇〇
田村	八〇	一〇〇
双中	一八〇	一〇〇
計	二、二八〇	一、五五〇

以上毎年度の志願者數を見るに如何に磐城中學は他の中學に比して其の數著しく多きを見る而して吾人石城郡民と雖も皆他郡と同一率の縣税を納付せしめらる而して吾人の子弟は他郡より採用せらるゝ數の少きは吾人父兄として最も不公平を論せざるを得ず最も一昨年及昨年の兩年は磐中志願者非常なる減少を見たるは是れ磐中は志願者非常に多きが故に田村双葉の兩中學は勿論遠く安達保原石川等に志願する者多きに依る故に本郡の志願者は大正十三四年頃の磐中志願者數七〇〇名を以て最多數とし漸次減少を見昨年の如きは五八三名本年度は五四五名となりたれども何れも他校の比に非ず是等の救濟方法として某縣議は常に郡南に一の縣立中學校を設立の可能性ありと論ずるも人員は充分の可能性あれど縣會通過の可能性なし余は此の点に就て數回述べたる如く本郡は卅余萬圓の縣税を納付して使用する縣費は六十余萬圓なりとかや故に各他郡選出の縣議諸士は石城郡に於て使用する縣費は極力否決せむとし居るなり故に本郡選出の議員六名あり各敏腕なりと雖も多數決なれば通過の可能性なきは當然ならずや故に私立中學校を設立して是れが補助を縣に願ふより他に方法なかるべきなり然らば

私立中學は如何にして設立するや

余は石川栃木茨城岩手等の地方に於ける私立中學を視察するに最も近きは茨城及岩手の二中學なり茨城中學は七萬九千圓の預金を基本金として財團法人とし岩手中學は拾萬圓の預金を基本金とし財團法人として文部省に出願し中學校令に依る私立中學校を設立したるなり吾人の設立せむとする中學校も亦然り

第一案

磐城育英會は二萬圓の資金を有する財團法人なり此資金を七萬圓に募集して財團法人磐城育英會の一事業として私立中學を設立せしむるものとす

第二案

平青年團に於て一萬坪の運動場を古川附近に設置せむとしたる事あり是れを實現せしめて此の運動場時價約五萬圓（埋立地及買收費共）更に其れに附屬して四千坪を買收して學校建築地とす此の敷地を學校用地として寄附し、此の價額約六萬圓是を以て財團法人として私立中學を設立すべし

以上二案の内にて私立中學として文部省の許可を得て更に校舎の建築をなす是には約四萬圓を要すべきも是は一時に支出するの要なく四ケ年間に完成せば可なり

文部省令に依る中學校には雨中体操場（講堂及扣所を兼ねる事を得）二千坪の運動場理科教室の設備さへあれば毎年増築にて差支なし生徒は參百人あれば收支償ふ故に百五拾人を採用せば二年目より差支なかるべし教員には恩給者を其の差額にて願ふ事とし充分の補充して尚ほ余りある見込あり更に不足なる場合には中學校女學校より兼任を乞ふべく是は本職に差支なき限り縣は許可する方針なり

校舎は 舊磐中學校舎又は商業校舎を移轉して使用すべし以上私立中學設立の火急に迫りたるなり故に是等子弟を有する父兄各位此の點に留意し來る四月一日の入學試驗ー發表を見て親子相抱きて泣く際に是れが救濟方法を講すべきに非すや父兄各位此の方針に子弟の救濟なす火急に非ずや

學窓新潮（十五）

同窓生中死亡一割強

十八歳より廿五歳迄多く

大半は結核病である

本紙前號に報道の通り磐中卒業生は二十七回迄二千百三十一人にして内死亡者二百二十三人『一割強』にして毎月一人二分位の死亡率で今回の二十八回生百五十六を合せて二千二百八十七人廿八回を入れて一割とせば二百二十八人の死亡者なるべきに已に二百二十三人の死亡者を出し尚五人を加ふれば一割となる故に來年三月迄には拾五人位の死亡者を出すに至るであらふ、各回數について顧みるに死亡者の多きは十八回百名中十六名、五回五十五名中十五名十回六十九名中十三名、八回五十九名中十三名其他は皆十名以下である。死亡者の九割は皆結核病患者で在學中最も健康にして柔道、劍道、ランニング、野球、テニス等の運動家にて犯されたる者多きは遺憾である、戰死者は第一回の草野砲兵少尉（留吉）第二回の酒井歩兵少尉（源司）最も氣の毒なるは第十三回の大越五平氏第六回の齋藤豐氏なり齋藤氏は獨逸に留學して醫學博士の學位を得て歸朝し横濱入港直に入院し死亡し博士として更に活動せざるのみか博士の顔を郷里平町にも見せる事を得すして遺骨として歸つた、又大越五平氏は内郷村白水の家族五人殺しの際殺されたるものである、卒業生各位は毎年百五十余名の同窓生の増加するを喜ぶ反面には十六七名の死亡者あるに注意し互に健康に注意せらるべきである、殊に卒業後六七年内即ち十八歳で卒業して廿五歳迄に死亡する者最も多く是れは殆ど全部結核患者なる事に注意せらるべきである。

× ×

漸次終息の處

油斷のならぬ天然痘

又復新患發生

平、四倉、赤井に

去る拾參日來より突如本郡平窪村に發生し平、草野、四倉、勿來、赤井各方面に迄襲ひ地方民をして惡魔的の恐怖と不安を與ひつゝあつた天然痘も各町村役場警察當局の手廻しの早かつたばかりでなく各自豫防に注意した爲め幸ひ其の後一二名の増加を見ただけで漸次終息を告げつゝあつた處俄然四倉町字本町猪狩駒吉次男磐城セメント職工忠（二〇）は去る二十日眞性と決定し次いて二十一日平町紺屋町三四乾物商伊三郎三男平第一小學校一年生阿部伊佐雄（九ツ）は二十一日眞性天然痘と決定した、因みに伊佐雄は三組の兒童で去る十七日迄通學して居つたので學校當局では消毒やら同級生を休業さするやら大狼狽を極めて居る。

次に二十二日又赤井村白渡農鎌倉艶三女キヨ（三ツ）も眞性と決定し此處許何時同病は終熄するのか地方民は不安に襲はれ景氣に影響する事甚大なものである。

今度は新田町に

腸チブス

花見時を控えて天然痘續發の爲平町では各大商店に迄非常な打撃を蒙り殊に新田町の料理屋邊は火の消いたやふな不景氣風が吹いてゐる折りから今度は又平町新田町藝妓置屋林家方藝妓小六事高橋スヱ（三四）同町六七小光亭女將芦田ヨ子（四七）の兩名は過般腸チブスと決定隔離されたが二十一日に至り更に前記林家方藝妓光若事小松崎トキ（二二）も腸チブスと決定し合計三名の患者を出すに至り同町を中心として十數名からの疑似患者があるといふので藝妓屋並びに料理屋の兩組合では大狼狽を極めて居る。

高木氏辭任後の

湯本町長物色難

湯本町前町長高木巳之吉氏辭任後同町長の席は今尚空席にて候補者物色中なるが未だに決定を見ず當分現助役が町長事務取扱として押して行くものゝ如くであるが過般出席同町會員にて非公式なる豫選をなした處左の如くであつたと

▲小泉氏二点▲赤津氏三点
▲鈴木氏二点▲若松氏一点
▲長氏二点

右の如くにて、同町會は小黨せり合つて居る事は如實に物語りつゝあり、難町として名ある同町の町長は余程の經綸がなければ決定せぬものであらふし又町長就任の氏としても事ある際に刑事告訴迄起されてイビキ出さるゝ同町の町長席には快諾して受くるもの尠からふと見られて居る。

内郷の火事

原因はストーブ煙突の飛火？

去る廿二日午前八時過ぎ内郷村字藤棚磐城炭鑛附屬病院綴分院事務室より發火同病院を全燒して九時鎭火したが附近には病室並びに家屋集密の爲一時は大混雜を呈した、原因はストーブ煙突の飛火よりで醫療器等の持ち出す暇なかりしとかにて損害は莫大とせられ居る

消防組頭となる

井坂氏

木村湯本消防組頭辭任したので井坂千代松氏組頭に昇任した。

話耳目

▲平町第三小學校敷地問題も片や立町片や南町と二派に別れなか〱決定せぬ摸樣である要は土地買上の少額の方がよい、一層地主より寄附をうけるなら尙更である、然るにこれが火事泥的土地評價のせり上げ等は以つての外である。

▲平商業學校は生徒二百五十名を三百名となし校舍も元磐中現第三小學校に變更の由……だが第三小學校敷地決定が先決問題であらふ。

▲平郵便局は愈々四丁目に起工する事になつた、町役場の新築、警察の移轉停車場の改築、刑務所の縮少…かくして改造から改良へと結構な事である

▲いつもながら戰慄するは半鐘の音と傳患發生であるが近來此の事平地方に喧しい、事は未然に防ぐを以つて賢なるもの、火の用心、衞生を守るが何よりのこと。

▲入學難、就職難の聲、中學を普通國民教育にする社會だからいかぬ、國民普通教育は尋常小學なる筈だ、要は尋小教育をして名實國民普通教育にする事が入學難、就職難を救ふ事なのである。

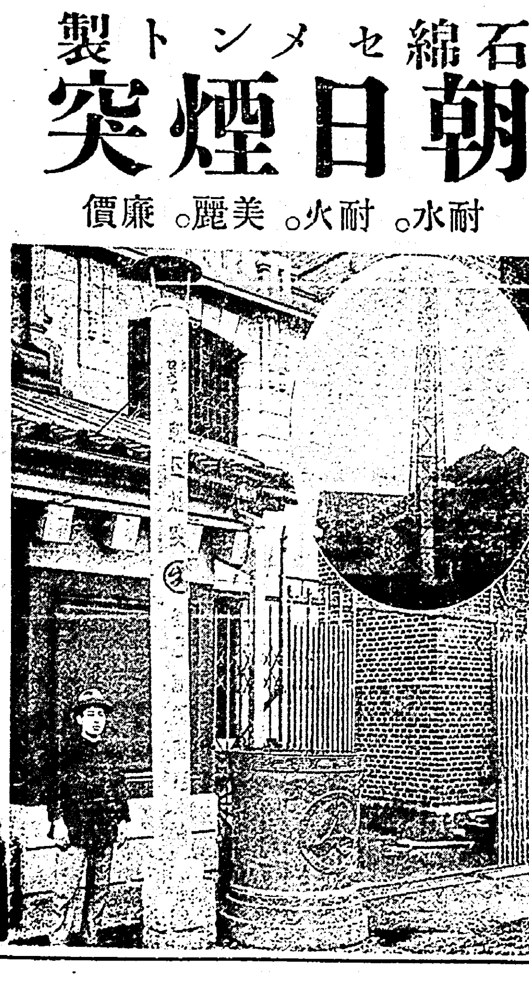
▲時ならぬ花見の夜嵐しがちよい〱ある、大きな花見至る所に在り矣！呵

故植竹氏の

遺作品展

平町美友會では前會長故植竹源太郎氏の遺作品（油繪）展覧會を來る四月一二三日三日間平町磐城訓盲院に於て開催し故人の眞摯なる藝術を透し高潔なる人格を偲び故先生の追悼の誠意を表すると尙會員新作品數拾点陳列される由。

サビナイ。ヤケナイ。クサラナイ
石綿セメント製
朝日煙突
耐水。耐火。美麗。廉價



平町五丁目
和洋銅鐵金物
釜屋商店
電話九番 一三九番

近火見舞御禮
内郷村藤棚
永井茂次郎
柿沼新五郎
沼田濱之助
佐藤久太郎
大越又吉
渡邊助七
川島トミ
吉川善太郎
植村勇次郎
松崎次郎
羽賀清七
大谷勝英
佐藤リン
平澤春吉

銘酒 磐陽男山 醸造元
永山酒造場
平町郊外谷川瀨

平和削節製造發賣元
海陸物産問屋
常磐線湯本驛前（磐城屋號）
鈴木道太郎商店
（振替東京六二一〇一番）
◉最上の鷄餌（魚粉）

祝平新報之發展

湯本消防組頭 井坂千代松
湯本町 溫泉旅館組合
湯本町會議員 渡邊長作
湯本藝妓屋組合
湯本驛通 西丸新聞店 電話六七番
湯本運送株式會社
湯本町驛前 高岡自働車部
湯本町 高木芳太郎
湯本郵便局長 鯨岡潔
磐間村 同春園長 川井重之

御家庭に是非必要な
衛生的マスク
藥用ブトー酒
滋養强壯藥品類
大特價提供！
平町五丁目
山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎